



100年先もナガノで暮らす! 社会課題と市民活動の記録

Nagacle Journal

ナガクル ジャーナル 2019.4.1~2020.3.31



Take Free!



ナガクル特設コーナー“SDGsコネクト”

長野の学生がSDGs達成へ7つの活動を発表

2020.03.18 掲載 執筆:ナガクルデスク寺澤順子



2月9日「信州高大生応援フェス2020」を清泉女学院大学東口キャンパスで長野県NPOセンターが開催、高校・大学生、起業家など約121人が集まりました。

午前中は学生が学校の枠を超えて集まり、国連の持続可能な開発目標SDGs(エスディーゼーズ)に取り組む活動をしてきたユースリーチ事業の報告をしました。

上田と長野市で開催した相互理解を目的とした人権イベント「ヒューマンライブラリー」に取り組んだ長野大学4年の笠原弘江さんは「偏見をもたずに人と接することを学んだ」と話しまし

た。ゴミ拾い等に取り組む「モザイク」の代表で長野高校生徒会長の北村優斗さんは「学生や大人が話し合える場を運営してきた。日本海岸や太平洋岸でもゴミ拾いをしたが、海外からのゴミが目立ち、日本だけの問題じゃない」と気づいたと語りました。

今回のイベント運営を行ったのは、高校生の居場所Fourth Placeを立ち上げるグループ。代表で日大付属高校1年の中澤貫太さんは「まちの中に学校や学年を超えた居場所を準備している」と発表。昨年10月の水害の被災者支援のために「高大生災害情報共有会議」を開催し、被

災地で学習支援などの活動をしている旨を説明しました。

また、ながの協働ねっと主催の高校生大学生がボランティア企画体験をする「地域まるごとキャンパス」事業についても学生が発表し、エシカル(倫理的)消費や、こどもの居場所など、地域のNPOと共に活動した経験を話しました。後は起業家の渋川駿伍さんの講演や学生を中心に自分たちにできることについてグループディスカッションを行いました。同事業は来年度も継続予定です。〔…続きはウェブサイトで〕

長野市民新聞「市民とNPOのひろば」2020年3月3日掲載

Social Matters

目の前の社会課題にソーシャルライターが挑む。そして我々市民に問うナガクルの原点とも言えるコーナー。

台風第19号災害 発災から2週間NPOの軌跡

2019.11.13掲載 執筆:ナガクルデスク寺澤順子



10月12日から13日未明に掛けて襲った台風19号。その被害は長野県各所で甚大です。

長野市長沼地区では、堤防が決壊した後15日水位が低下し、17日には仮堤防が完成。ようやく住民が現地に入れる状態となりました。24日に決壊現場近くの民家でボランティアと一緒に作業する被災者の大学生に話を聞くと「17日に県外から戻ると、実家周辺は見

渡す限り泥だらけ、言葉を失った」と話しました。決壊箇所のすぐ近くにある長沼コミュニティセンターの体育館の床ははがれ、北側の民家に突っ込んでいました。

重機を持って助けに入ったグループが撤去作業を行っていました。こうしたプロボノ(専門家のボランティア集団)といわれる民間NPOが、重機やダンプ、軽トラなどを全国から調達し、廃棄物や泥を運び、道を明けていました。災害が発生してすぐに「…続きはウェブサイトで→」

長野市民新聞
「市民とNPOのひろば」
2019年11月5日掲載



広がる温暖化…温まる長野。冷やすヒトビト。

2020.03.19掲載 執筆:ソーシャルライターK-た



グレータ・ティンティン・エレオノラ・エルマン・トゥーンベリさん。2003年1月3日にストックホルムで生まれ、学生でありながらスウェーデンの環境活動家として活躍しています。主に地球温暖化によってもたらされるリスクを訴えています。

スウェーデン語で「気候のための学校ストライキ」という看板を掲げて、より強い気候変動対策をス

ウェーデン会議の外で呼びかけるという学生時代を過ごし始めたことでよく知られるようになりました。

彼女が2020年1月の世界経済フォーラムの年次総会(ダボス会議)で演説し、「私たちの家は今も燃えている。皆さんの怠慢が1時間ごとに油を注いでいる」と世界に警告したはあまりにも有名な話です。(CNN.co.jp_グレータさん、ダボス会議で演説「今すぐ行動を」より、)

「…続きはウェブサイトで→」



食料自給率を高めるカギは学校給食だ!

2020.2.29掲載 執筆:ソーシャルライター吉田百助



「平成30年度のカロリーベース食料自給率は37%」と、農林水産省のホームページを見るとある。食料自給率とは、国内の食料消費が、国産でどの程度まかなえているかを示す指標だとしている。

つまり国内の食料消費の63%が国内でまかなえていないということだ。食料自給率の長期的推移を示すグラフで前述したカロリーベースは、中ほどの青線。年々下

がっているのが分かる。同省のホームページには「先進国と比べると、アメリカ130%、フランス127%、ドイツ95%、イギリス63%となっており、我が国の食料自給率(カロリーベース)は先進国の中で最低の日本の食料政策とその結果分析に疑問。

食料自給率が低下した説明を同省は「平成30年度においては、米の消費が減少する中、主食用米の国内生産量が前年並みとなった一方、天候不順で小麦、大豆の国内生産量が大きく減少したことにより「…続きはウェブサイトで→」



今、子どもたちの食が危ない

2020.2.17掲載 執筆:ソーシャルライター 野菜ソムリエプロ 増田朱美



2020年1月29日、長野県長野保健福祉事務所を会場に「令和元年度長野地域 健康づくり・食育フォーラム」が開催された。このイベントを通して、長野県における子どもたちの食育の重要性を考えたい。NPOと行政が手を組んで、子どもたちの食育を支える必要性があるのではなかろうか。

長野県が独自のアンケートを実施し策定した「長野県こども若者

支援総合計画〜子ども若者未来の応援〜2018-22を見ると・・・小中学生の9割は朝食をとっている一方で、約半数しかバランスの良い朝食を摂れておらず、約2割の児童生徒が、副菜なしの朝食となっているなど、望ましい食事内容となっていない子どもがいたとしている。

1月29日の健康づくり・食育フォーラムの冒頭、長野県立大学健康発達学部長、笠原賀子氏は「持続可能な食育の推進にむけて〜地域の野菜と果物で健康づくり〜」

「…続きはウェブサイトで→」



ナガクル登録団体

- ◆ 非営利ボランティア団体 天空の里 いもい農場 長野市
- ◆ 社会福祉法人 恵仁福祉協会アザレアさんだ 上田市
- ◆ 特例認定NPO法人 介護屋つむぎ 木曾町
- ◆ NPO法人 Happy Spot Club 千曲市
- ◆ NPO法人 ホットラインながの 長野市
- ◆ NPO法人 リバレルテ 上田市
- ◆ ながの電気クラブ 長野市
- ◆ NPO法人 こずもけあくらぶ 長野市
- ◆ NPO法人 霧ヶ峰基金 諏訪町

- ◆ NPO法人 有機農業参入促進協議会 千代田区
- ◆ NPO法人 長野県NPOセンター 長野市
- ◆ NPO法人 長野犯罪被害者支援センター 長野市
- ◆ 認定NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会 長野市
- ◆ NPO法人 ユニバーサルツーリズムながの 安曇野市
- ◆ NPO法人 わおん 塩尻市
- ◆ 認定NPO法人 長野サマライズ・センター 塩尻市
- ◆ ながの災害・防災ネットワークみらい 長野市
- ◆ NPO法人 善光寺街道歩き旅推進局 麻績村
- ◆ NPO法人 日本フロアホッケー連盟 長野市
- ◆ NPO法人 信州まちづくり研究会 立科町
- ◆ NPO法人 侍学園スクオーラ・今人 上田市

- ◆ NPO法人 ふうえば 長野市
- ◆ NPO法人 飯綱高原よっこらしよ 長野市
- ◆ NPO法人 食育体験教室・コラボ 長野市
- ◆ 長野ホテルの会 須坂市
- ◆ NPO法人 NINJA Project 長野市
- ◆ 株式会社 ウェブシェア 長野市
- ◆ 翠翔会 長野市
- ◆ NPO法人信州フォレストワーク 長野市
- ◆ 特例認定NPO法人 ヒューマンネット ながの 長野市

団体の詳細はこちらから⇒



Pick Up NPO



ソーシャルライターがNPO法人を訪問。今年度は育児や子どもの居場所をテーマに紹介します。

NPO法人育自の魔法

育児ではなく育自 (いくじ) です



ことばの響きから、「ママたちのためのもの?」と思う人が多い「育自(いくじ)のための小さな魔法」は、NPO法人 育自の魔法 代表理事の山口ひとみさんがはじめたワークショップ。

「すべての人がその生き方に自信と誇りをもち輝くことのできる社会づくりのために」を掲げたもの。代表理事山口ひとみさんがこう語っている。「本当に自分を大事にすることがどれだけ重要であるかは、多くの人を感じているのではないのでしょうか。自分を否定するから、相手も否定していじめや虐待やDVや貧困など多くの問題が起きていと感じます。人がまず自分自身を認める、愛することこそが、問題解決の一番の近道だと考えます。」

[…続きはウェブサイトで→]



2019.11.13掲載 執筆:ソーシャルライター-増田朱美

NPO法人アフタフ・バーバン

遊びを通じて豊かな地域を!



忍者の姿で街へ潜入する。チャンバラで敵の忍者と戦う。そんな子どもの時アニメや漫画で見た光景が、実際にあるとしたら。きつとドキドキワクワクすると思いませんか?

「忍者まちはしる」NPO法人「あそび環境 Museum アフタフ・バーバン」は、私たちが日常生活で忘れかけている、遊びを通じた多くのプログラムを全国で展開している。「一番最初に法人の名前を言ったとき、だいたい聞き返されませぬ」北信越事務所所長で専任スタッフの清水洋幸さんは、笑いながらそう言った。

[…続きはウェブサイトで→]



2019.7.23掲載 執筆:ソーシャルライター-さしみ

NPO法人ワーカーズコープ上田事業所

中高生スペースCOCOON



上田市材木町の交差点近くに、「信州うただ中高生スペースCOCOON」はある。COCOONの運営団体は日本労働者協同組合連合会、NPO法人ワーカーズコープの上田事業所。上田市から委託を受け、市内の児童クラブの運営もしています。COCOONの入り口には、ポップな文字で「COCOONへおいでよ。」と書かれたチラシ。上田事業所では、主に4つの活動をメインにしています。今回は、子ども食堂である「おけまる食堂」について取材をしてきました。おけまる食堂は、毎週木曜日に実施。

[…続きはウェブサイトで→]



2019.5.25掲載 執筆:ソーシャルライター-さしみ



My Story

NPOで活躍する方たちの人生のストーリーをナガクルでお読みください

NPO法人長野リハビリ友の会 理事 田中 秀夫さん

2020.3.17 掲載
執筆:市民協働サポートセンタースタッフ



記事は
こちらから↓



機関誌 まんまる
2020年春号掲載

びんびんきらりの鬼退治 関口 憲治さん (佐久市)

2020.1.30 掲載
執筆:ソーシャルライター-K-た



記事は
こちらから↓



NPO法人長野県NPOセンター 代表理事 山田 千代子さん

2019.4.1 掲載
執筆:ナガクル編集デスク寺澤順子



記事は
こちらから↓



機関誌 まんまる
2019年春号掲載

NPO法人スポーツコミュニティークラブ東北 事務局長 藤牧 敏子さん

2019.8.9 掲載
執筆:市民協働サポートセンタースタッフ



記事は
こちらから↓



機関誌 まんまる
2019年夏号掲載

NPO法人カシオペア 花石 多希子 (しまりー) さん

2020.1.28 掲載 執筆:ソーシャルライター
野菜ソムリエプロ 増田朱美



記事は
こちらから↓



ながの協働ねっと 事務局長 亀垣 嘉明さん

2020.3.22 掲載
執筆:市民協働サポートセンタースタッフ



記事は
こちらから↓



機関誌 まんまる
2019年秋号掲載

Relay Column



ナガノの地域課題に取り組む市民活動家のみなさんから、現場の声をお届けしています。

福祉教育は大人に必要では?!

川崎 昭仁さん

NPO法人ヒューマンネットながの理事
2020.1.23掲載

(前略) 私は、様々な障害者の支援を行うNPO法人ヒューマンネットながので、障害者の権利や社会参加の促進に取り組む傍ら、県内の各学校や公民館などで「福祉について」「障害の理解」「人権について」などを自身の障害や体験、時には得意のギター演奏を交え講演を行っています。



最近では“共生社会”に向けた取り組みが多く「人と人が支え合うにはどうすればよいか」という話をしてくれという要望がよくあります。そんなわかりきったことを…と思いつながら話をすると、多くの子どもたちは感覚的にそれをわかっています。大人は言動になにかと理由や理屈をつけたがるけれど、気持ちで動くというのはわかりやすいし、説得力があります。だから子どもの行動に心動かされるのでしょうか。

そう考えると、福祉教育が必要なのは先生をはじめとする大人たちなのかもしれません。

昨年の夏頃、私の関わる福祉団体に、ある小さな村の中学校から、福祉について講義依頼がありました。

[…続きはウェブサイトで→]



長野市民新聞「NPOリレーコラム」
2019年1月18日掲載

穂保被災地支援チームの動き

太田 秋夫さん

長野市穂保被災者支援チーム代表
2019.12.24掲載

穂保被災者支援チームは発災からおよそ1週間後の10月20日から活動をスタートし、まもなく2か月になろうとしています。

避難所に来ていない在宅避難者・親戚避難者に炊き出しによる食事の提供と救援物資の提供をする活動を始めました。当初は避難所の運営にボランティアでかかわっていましたが、行政の手が届かないところで困っている被災者がいることに気づいたからです。



チームの活動に関わった人たちは全員が個人の立場で加わり、人から人へと伝わってその輪が広がりました。泥出しという力仕事はできないが、炊き出しのお手伝いや救援物資の整理ならできる、1日中は無理だが半日だけなら動ける…、そうしたボランティアをチームは受け入れました。人のつながりだけでなく、SNSを通じたの申し出もたくさんありました。未曾有の災害に接し、「何かしたい」という人が大勢おり、その人たちの力と行動によって、当初は穂保区を対象とした取り組みが長沼地区全域、豊野地区にまで範囲が広がりました。

[…続きはウェブサイトで→]



長野市民新聞「NPOリレーコラム」
2019年12月21日掲載

食品ロス削減法と意識改革

美谷島 越子さん

認定NPO法人フードバンク信州事務局長
2019.6.18掲載

2019年5月24日、国会において「食品ロス削減推進法」が成立しました。食品ロスとは、廃棄される食品のうちまだ食べられる期間内であるにも関わらず捨てられてしまう食料のことです。

日本の食品ロスは2016年度の推計で643万トンに上っており、国民1人当たり毎日お茶碗1杯のご飯を捨てるのと同じ量になります。食品ロスには、企業や小売業などから出される事業系ロスと一般家庭から出される家庭系ロスがあります。643万トンのうち、事業系ロスが352万トン(54.7%)、家庭系ロスが291万トン(45.3%)となっています。



「食品ロス削減推進法」の成立をキッカケに注目したいのは、食品ロスの約半分近くは家庭から出ていることです。

食品ロス削減には行政や各企業においてロスを出さない仕組みづくりに取り組んでほしいと期待すると同時に消費者である私たち市民一人ひとりの毎日の生活に中での意識改革と実践が大きなカギになると言えます。

[…続きはウェブサイトで→]



長野市民新聞「NPOリレーコラム」
2019年6月15日掲載

取材先や執筆者を探しています。

ナガクル編集室では、研修を受けたソーシャルライターが、NPOの現場にお邪魔して取材、紹介をさせていただきます。非営利が目的の団体での活動に限らせていただきます。またNPOの理事や代表者で、自身でコラムを書いてみたい方も募集中です。左下QRよりサイトフォームでご連絡ください。



ナガクルーになりませんか?

ソーシャルライター養成講座を開催します。来年度は長野市で10月17・24日の予定です。詳細はサイトで!

Come and join us!



ナガクルに団体登録しませんか?

長野県内で市民活動や、社会貢献活動をしている団体(企業も可)なら、法人格の有無に関わらず登録可能です。日本財団のCANPANへの登録が前提となります。登録されると貴団体が日頃発信されているブログがナガクルのトップページに自動掲載されます。



ナガクルジャーナルは赤い羽共同募金の配分金で発行されています